

# 教職指向性に関する質問紙の開発

正田 良, 菱刈 晃夫

## 1. はじめに

昨今の教員養成においては、実践的指導力の育成が重要であることが指摘されている<sup>(1)</sup>。養成を担当する大学では、「教職課程の体質変革を提出」<sup>(2)</sup>されながらも、その対応が完璧に行なわれているとは言い難い。確かに、いろいろな取り組みが為されてはいるが、その効果を実証的に確かめながらの綿密な計画の検討が必要とされるところである。

三重大学教育学部では、2004年度に2つの教職指向性に関する調査を行なった<sup>(3)(4)</sup>。三重大学教育学部は、教員養成機能のより良い状態を目指し、教育実地研究の充実、並びに体系化を期しての変革の端緒についたところである。他方、本学国土館大学の文学部教育学科初等教育専攻は、実践的指導力を養成する必要を認めながらも具体的な方策が個々の講義担当者による工夫の域にとどまり、体系的な対応の必要性が指摘される。教育実習が4年生で初めて行ない得るのみであるものの、サークルなどの人的繋がりを介して教育ボランティアなどの活動が盛んでフレンドシップなどに準ずる影響が学生にあることが予想される。

そこで、上述の三重大学における2つの調査を先行研究とし、「教職指向性」に特化して質問紙を再構成し、本学の初等教育専攻に於ける現状を分析することによって、今後の指針を得ることを、本研究の目的とする。

## 2. 質問紙の構成と実施

### 2. 1 質問紙調査の実施と回収率

原則として7点法による質問紙調査を、全ての学年に属する学生を対象として2005年6月に行なった。質問紙は資料Aに収める。それぞれの学年の必修科目である授業で質問紙を配付し協力を求めた。表2-1にその回収率を記す。学年によって回収条件がまちまちとなったので、残念ながら3年の回収率が特に低くなってしまった。他専攻履修で当該の科目を履修している学生も本学も小学校の教員免許を取得するための教員養成課程に同じくあるものとして以下の集計では、初等教育専攻の学生の回答と同等に扱った。回収率は、初等教育専攻の在籍数に対する初等教育専攻の学生の回答の回収数の割合とした。表2-2のように在籍者に対して、回答者は、顕著に性別が偏ったとは言えない。

表2-1 質問紙調査の回収率

学年	初等 在籍	総回 収数	初等 回収	初等 外	回収 率
1	48	48	46	2	0.96
2	46	47	42	5	0.91
3	54	26	18	8	0.33
4～	57	50	43	7	0.75

表2-2 回答者の性別

学年	総回 収数	男子	女子	男子 率	不明
1	48	17	30	0.36	1名
2	47	20	27	0.43	
3	26	10	16	0.38	
4～	50	17	33	0.34	

## 2. 2 質問紙の構成と結果の概略

第1～5項目は、回答者の個人を識別するための情報である。第6項目は回答者の性別に関する情報である。

### 2. 2. 1 諸経験の有無

第7～13項目は、問1となっている。教育実習や教育実地研究などに関連、もしくは、準ずる諸経験の有無に関する情報である。その結果は表2-3に記す。

表2-3 教育実地研究などに関する経験の有無

経験率 学年＼	(1) 介護等	(2) 実地研究	(3) 実践研究	(4) サークル	(5) 塾・家教	(6) 教ボラ	(7) 教育実習
1年	0.13	0.13	0.08	0.58	0.17	0.17	0.00
2年	0.09	0.28	0.17	0.66	0.17	0.38	0.04
3年	0.73	0.69	0.88	0.79	0.52	0.57	0.04
4年	1.00	1.00	1.00	0.72	0.33	0.50	0.98

介護等体験と中学校などでの施設での奉仕活動の経験などを混同しているものがあると思われる。なお、4年生に比べて3年生の方が経験している率が高い項目が(4)、(5)、(6)となっている。これは、このような活動に関心を持っている学生がたまたま回答者に多かったものか、それともこの学年全体に関心が高いのかは定かではない。(4)「サークルなどの活動で子どもと接すること」、(6)「教育ボランティアとしての学校との関わり」の率が高いことも注目される。そして、2年から3年にかけて、各種の「教科教育法」での活動などを、(2)「子どもと接する活動や教育現場と直接関わる活動を含む授業科目」や、(3)「模擬授業や学習指導案の作製を含む授業科目」として評価していることも、表2-4の三重大学教育学部でのデータと比べて、注目されるべきことである。

なお、表2-4で、「事前実習」とは、2年生のときに、3年生が4週実習を行なっている様子を見学するものである。また表で「授業科目」としたのは、(7)「子どもと接するボランティア活動や教育現場と直接関わる活動を含む授業科目」の経験があるとした回答を意味している。

表 2-4 三重大学教育学部 (5) でのデータ

	(1)		(4)		(7)		回収数
	事前実習	その率	4 週実習	その率	授業科目	その率	
1 年	3	0.02		0.00	31	0.18	170
2 年	75	0.58		0.00	34	0.26	130
3 年	89	0.73	91	0.75	51	0.42	122
4 年	85	0.75	92	0.81	55	0.49	113

### 2. 2. 2 入学動機

第14～25項目は問2として、入学動機に関する項目である。これらに関して因子分析<sup>(6)</sup>を行なったところ、表2-5に示すような2つの因子が認められた。

表 2-5 入学動機に関する因子

	固有値	寄与率	累積寄与率	因子負荷量が 0.5 以上の項目
因子 1	2.914	0.541	0.541	4, 5, 6, 7, 10, 11, 12 (課外活動的)
因子 2	1.355	0.252	0.793	1, 2, 3 (実利的)

因子1は問2の(4)、(5)、(6)、(7)、(10)、(11)、(12)に関して因子負荷量が0.5を越えているので、「課外活動的」因子と解釈できよう。因子2は(1)「教職」、(2)「勉強」、(3)「免許」に関して因子負荷量が0.5を越えているので、「実利的」因子と解釈できる。(8)「実家通学」、(9)「入試で合格」は独自性が高く、この2つの因子への因子負荷量はどちらへも低かった。

第35項目であるⅢの間3は、「大学に入学した当初、あなたはどのような進路を希望していましたか。」と入学時での教職指向性を聞いている。これを目的変数として、各回答者のこれら2つの因子に関するそれぞれの因子得点、並びに、独自性が高かった2つの項目への回答を説明変数とする重回帰分析を行なったところ、表2-6に示す結果を得た。

表 2-6 入学動機を説明変数とする入学時の教職指向性への重回帰分析

	回帰係数	標準回帰	標準誤差	t 値	p 値	
定数項	6.149	0.000	0.355	17.312	0.000	**
(8) 実家	0.030	0.056	0.038	0.792	0.430	
(9) 合格	0.022	0.028	0.056	0.392	0.695	
因子 1	-0.136	-0.113	0.085	-1.600	0.112	
因子 2	0.594	0.451	0.094	6.348	0.000	**

因子2の「実利性」因子のみが危険率5%で統計的に有意となった。

### 2. 2. 3 狭義の教職指向性

Ⅲ 問5は、第43～52項目に当たり、それぞれの就職先に関しての就職希望を7点法で回答するものである。これは三重大学教育学部での調査では特徴的なものであった。12の就職先パターンへの志望の度合いから因子分析によって、狭義の教職指向性である第1因子と、「実家から通えないといやだ」というような就職先を選び好みする第2因子とを見いだすことができている<sup>(7)</sup>。しかし、今回の場合、表2-7の示すように、因子1としては、教職への志望、因子2として

表2-7 就職に関する指向の因子分析（本学）

共通性	0.46	0.61	0.57	0.71	0.45	0.61	0.67	0.74	0.81	0.73
独自因子	0.54	0.39	0.43	0.29	0.55	0.39	0.33	0.26	0.19	0.27
因子1	<b>0.67</b>	<b>0.77</b>	<b>0.76</b>	<b>0.84</b>	<b>0.67</b>	<b>0.78</b>	0.16	0.00	0.11	0.03
因子2	0.11	0.11	0.03	0.08	0.01	0.07	<b>0.81</b>	<b>0.86</b>	<b>0.89</b>	<b>0.85</b>
問5	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)
勤務先	実公専	実私専	外公専	外私専	実公非	実私非	実官	実企	外官	外企

は官庁・企業への志望と分かれて、実家からの通勤可能性などに関する因子は見られなかった。

第26項目は、Ⅲの問1にあたり、「現在、あなたは教職をどの程度志望していますか。」となっている。重回帰分析の結果を、表2-8へ記す。表2-6とほぼ同様な結果が得られた。三重大学の場合9つの選択肢から3つの選ぶという回答形式という違いはある。また、「県内の就職」が、ここでいう「実利性因子」に含まれているという地域性が見られている<sup>(8)</sup>。

表2-8 現在の教職指向性を目的変数とする重回帰分析

	入学動機		定数項	入学時	就職指向性	
	因子1	因子2			因子1	因子2
	課外活動	実利性			学校	企業・官庁
回帰係数	-0.044	0.575	4.028	0.357	0.245	0.011
標準回帰	-0.039	0.464	0.000	0.379	0.218	0.01
標準誤差	0.054	0.067	0.330	0.051	0.055	0.052
t 値	-0.819	8.596	12.217	6.973	4.479	0.215
p 値	0.414	0.000	0.000	0.000	0.000	0.830
		**	**	**	**	

### 2. 2. 4 教科指導に関する感想

第53～82項目、並びに、第83～112項目は、それぞれⅣの問1（現在の各教科に関する感想）、問2（入学時の各教科に関する感想）となっており、A：「好き」、

B：「得意」、C：「教えたいと思う」という3つの観点に関して7点法による回答を求めている。因子分析を試みたが、表2-9に示すように、3つの観点に応じた因子の分かれ方は見られなかった。

表2-9 それぞれの因子に対して因子負荷量の絶対値の大きな項目

因子	入学時	現在
1	美術A, B, C, 体育A, B, C, 道徳A, B, C	国語A, B, C, 社会A, B, C, 道徳A, B, C
2	算数A, B, C, 理科A, B, C	算数A, B, C, 理科A, B, C
3	音楽A, B, C, 家庭A, B, C	音楽A, B, C, 家庭A, B, C
4	国語A, B, C, 社会A, B, C	生活A, B, C, 美術A, B, C, 家庭A, B, C, 体育A, B, C

この回答者の様子は、まだその教科の得意不得意と、教えたいかどうかが未分化な状態であることを示している。それぞれの教科の教育方法を学ぶにあたって、当該の教科への苦手意識の克服が課題となると言えよう。

#### 2. 2. 5 教育実習への不安

第113～120項目は教育実習を前にしての不安を聞いている。また、第121～128項目では実習中での不安を実習を済ませた回答者に聞いている。これから時期を追っての変化を図2-1に示す。学年は2年と3年とを合併した。表2-10のように、本来平均に差がないはずの集団であるとみなすべき項目に関して、差が見られたので、人数並びにこの差に関して均等にするためである。

実習に行ってみると不安が軽減するという傾向がみられるが、学年があがるにつれて不安が増すものが、「教材」、そして、「指導案」もややその傾向がある。逆に学年が上がるにつれて不安が軽減するのが「子ども」である。

学年による変化の他に、行事の経験の有無が不安などにどのように作用するかを見ることにしよう。Ⅱ問1(1)～(7)のそれぞれによって知ることができる経験の有無を、未経験を0、経験済みをも1とするダミー変数を作り、これらを

表2-10 学年毎の平均の不均等

	入学動機		入学時志望
	課外活動	実利	
1年	0.348	0.211	6.667
2年	0.091	0.039	6.447
3年	-0.503	-0.301	6.423
4年	-0.156	-0.082	6.000
全体	0.000	0.000	6.379

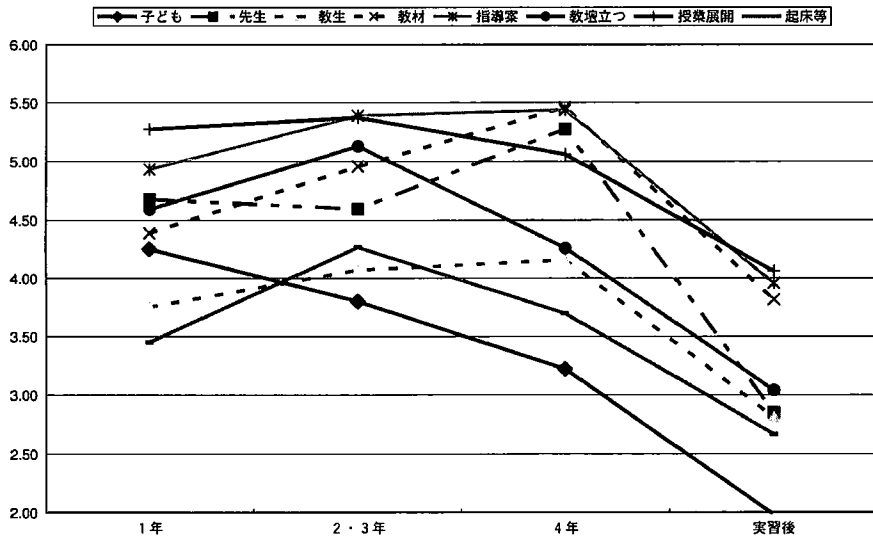


図2-1 実習に対する不安の変化

表2-11 各種の経験と不安の変化

Ⅱ 問1 (経験)	不安など	子ども	先生	教生	教材	指導案
		V問1(1)	V問1(2)	V問1(3)	V問1(4)	V問1(5)
(1) 介護等		-0.01	0.06	-0.09	-0.44	-0.39
(2) 実地研究		-0.51	0.12	0.11	-0.34	0.08
(3) 実践研究		0.14	-0.17	-0.16	<b>0.91</b>	<i>0.79</i>
(4) サークル		-0.53	0.19	0.15	-0.13	-0.04
(5) 塾・家教		0.44	0.00	0.62	0.31	-0.09
(6) 教ボラ		-0.69	-0.74	-0.32	-0.18	-0.49
(7) 教育実習		-0.39	<i>0.74</i>	0.25	0.62	0.03

Ⅱ 問1 (経験)	不安など	教壇立つ V問1(6)	授業展開 V問1(7)	起床等 V問1(8)	就職に関する	
					因子1	因子2
(1) 介護等		0.31	0.02	-0.07	-0.21	-0.08
(2) 実地研究		-0.76	-0.07	0.17	-0.04	0.35
(3) 実践研究		0.69	0.50	0.26	-0.22	0.14
(4) サークル		-0.08	-0.05	0.02	-0.07	-0.11
(5) 塾・家教		-0.31	-0.10	0.42	0.10	0.16
(6) 教ボラ		-0.26	-0.53	-0.19	0.20	-0.31
(7) 教育実習		-0.85	-0.46	-0.38	-0.03	-0.43

二二七

説明変数として、上述の不安のそれぞれに関して、それを目的変数とした重回帰分析を行なった。また、就職に関する指向性に関して同様に分析を行なった。表2-11にその結果を示す。回帰係数のみを表に示し、太字は5%有意即ちp値が0.05未満であること、斜字はp値が0.1未満であることを表わしている。

5%有意となったのは、2ヵ所のみであった。実践研究によって教材に関する不安が増している。これは実際に授業を構想することによって、学生が自分の勉強不足を意識できていることを意味していると思われる。指導案についてもややその傾向が見られた。学校の先生に対する不安は教育ボランティアで軽減している。小学生当時の教わる立場しか知らない学生にとって、教えるという同じ立場にある学校の先生の実物を身近に見ることができる機会として教育ボランティアは機能していると言える。また、「授業展開」に関する不安も軽減させる傾向があった。しかし、反対に教育実習では、p値が10%程度ではあるが、むしろ不安を増加する傾向がみえた。実習中はむしろ指導されるものとして学生を遇していたたき、様々なご指導を戴く機会であるので、このような感じ方となったのではないだろうか。

就職指向性に関する因子では、5%ではないものの危険率10%の程度で、教育ボランティアと、教育実習とが因子2（教職以外）の因子得点を減少させる傾向にあった。しかし、これもp値は5%未満ではない。また他の部分は10%以上のp値となった。これは三重大学での結果<sup>(10)</sup>からみると意外な結果であった。4週間実習が本学の場合4年生にならないと経験できないため、その経験をしている回答者の割合が他の経験に比べて少なくならざるを得ないこと。4年生にとっては、すでに教員採用試験の受験勉強や、一般企業への就職活動を始めている時期となるので、教育実習の前に学生にとっては就職に関する指向性を決めざるを得ないことが原因として考えられる。

第36～42項目は、Ⅲの問4として、「次のものは、あなたにどのような（教職志望の変化について）影響を及ぼしましたか。」とより直接的な質問をした。未経験である人数を除外し、表2-12の結果を得た。

表2-12 教職志望への影響

Ⅲ 問4	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)
	講 義	見 学	先輩仲間	サークル	バイト	教 ボ ラ	身 内
経験者数	171	139	170	155	157	128	161
平均	4.49	5.50	5.23	5.32	4.55	5.41	4.52
SD	1.24	1.27	1.30	1.34	1.29	1.38	1.27

一  
二  
六

「講義」が最下位となった。その標準偏差から無視できない程度の人数が教職志望を減じさせられたことになる。これは教育学科として期待して入学した学生の期待からの裏返しとみることができる。また、教育学科の講義と言う教職指向

性を高める目的を持つべきものが、「身内」,「バイトなどの学生生活」と、必ずしもそれを目的としないものと同程度の影響しか持たないとも言える。

## 2. 2. 6 教職観の変化

第27～34項目はⅢの間2として回答者の教職観についての質問をしている。表2-13には、それぞれの項目(変数1～8)を目的変数として、2. 2. 5でみたⅡの間1で知ることができる経験(変数9～15)を説明変数とする重回帰分析をそれぞれ行なった結果を記す。太字はp値が5%未満である箇所を示している。なお、p値が5%以上10%未満である箇所はなかった。

調査した人数が少数であったこともあって、統計的に有意となった箇所はかなり少ない。介護等体験によって、「子どもの成長を導く指針となりたい」という自分の師範性に関する意識が減少している。また、教育実習によって、「教師の仕事に魅力を感じる」傾向が増加している。以上の2点はその経験の効果としてうなずける結果である。しかし、次のことは、やや不可解である。教育実践研究によって、「教師は視野が狭いと思う」とする傾向が増大した。断定的なことは言えないが、ある教科教育法の担当者の感想を紹介しよう。

学習指導案の作製などの指導場面で、授業時間が少なく、指導が学習指導案の形式的な記し方のみにとどまってしまっている。

このような状態であると、授業を企画すると言う作業の創造性よりも、形式に揃えなければいけないという閉塞性をより強く学生は感ずるのではないだろうか。

表2-13 教職観の経験を説明変数とする重回帰分析

	(1) 成長 指針 変数1	(2) 仕事の 魅力 変数2	(3) 勉強の 活用 変数3	(4) 視野の 狭さ 変数4	(5) 重労働 変数5	(6) 報酬少 変数6	(7) 処遇の 安定 変数7	(8) 勉強要 変数8	
定数項	<b>6.24</b>	<b>6.25</b>	<b>5.37</b>	<b>3.93</b>	<b>6.35</b>	<b>4.64</b>	<b>5.32</b>	<b>6.52</b>	
変数9	<b>-0.58</b>	-0.28	-0.09	0.28	-0.12	-0.07	0.37	0.04	介護等
変数10	0.01	-0.30	0.26	-0.28	0.10	0.29	-0.40	-0.10	実地研究
変数11	-0.31	-0.35	-0.25	<b>0.76</b>	0.02	0.27	0.03	-0.16	実践研究
変数12	0.11	0.15	-0.16	-0.25	-0.01	-0.08	-0.10	0.04	サークル
変数13	-0.03	-0.09	0.05	0.33	-0.10	0.11	0.29	-0.05	塾・家教
変数14	0.14	0.09	-0.23	-0.14	-0.08	-0.21	-0.14	0.22	教ボラ
変数15	0.42	<b>0.54</b>	-0.17	-0.44	0.14	-0.26	-0.23	0.15	教育実習

二五

## 2. 2. 7 教育実習からの学び

第129～140項目は教育実習からの学びに関する項目で、教育実習経験者のみに聴いている。そのうちはじめの8項目は、Ⅴの間3として、何が「授業の見方に



表 2-15 教育実習からの学び

	問 3					
	(1) 授業参観	(2) 教員助言	(3) 指 導 案	(4) 子 反 応	(5) 他の教生	(6) 反省会師
回答数	48	48	48	48	38	47
平 均	6.65	6.79	6.25	6.52	3.42	6.57
SD	0.72	0.45	1.30	1.21	2.41	0.89

	問 3		問 4			
	(7) 反会教生	(8) 大学教員	(1) 授業準備	(2) 子 予 想	(3) 柔軟対応	(4) 子 反 応
回答数	38	47	48	48	48	47
平 均	3.68	3.60	6.60	6.19	6.27	5.40
SD	2.45	2.06	0.93	1.41	1.25	1.50

関する変化」に影響を与えたかを問い、あとの4項目は、Vの問4として、教育実習で何を学習したかを問うている。表2-15にその結果を記す。

実習生が学ぶ機会は、(2)「実習校の指導の先生による平素の助言・指導」の平均値が高く、標準偏差が小さい。即ち回答者がかなり一致して高く評価していると言える。他にも、(1)「実習校の指導の先生による授業の参観」、(6)「反省会での実習校の先生による助言・指導」の平均値が高く、実習生は実習校の先生、特に指導教諭の先生とのコミュニケーションによって多くを学んでいる。「大学の先生による助言・指導」への評価は低い。教育実習の現在の実態としてうなずける結果となった。

実習生が学んだ内容としては、(1)「授業前に十分準備することの大切さ」が、平均値が高く、標準偏差も小さいので、多くの人が高く評価していると言える。(3)、(2)も評価が高いのに対して、(4)「実習生の授業に対する子どもの反応やシビアな評価」の平均値はそれほど高くはない。

### 3. 自由記述による回答から

菱刈<sup>(11)</sup>によって前節までの裏付けになりうることや、7点法では知りえないことなどを知ることができるが、紙幅の関係でごくかいつまんで記すことにする。  
Q1. 「実習後、教職に対する思いや価値観はどのように変化しましたか?」に対して教師や授業の実際に触れて、行われていることや行われるべきことの重要性を初めて認識している。

Q9. 「教師を目指すに当たって、この大学の教員養成カリキュラムのなかで、役立ったことは何ですか?」の回答の傾向として、「教科教育法、とりわけ指導案作成に熱心な教科教育法や、一部の模擬授業という回答が多かった。」として

いる一方で、「とくに何もなかったと答える者がかなり多い。」とも指摘している。教育実践研究や教育実地研究が緒についたばかりという現状を現している。そして「模擬授業が役に立った。しかし同じ単元を大学生を相手にして行うのと小学生を相手にしてやるのでは違うので役に立たないこともあるが人前で話をすることに慣れるという面では模擬授業は役に立った」と、模擬授業の架空性が述べられている。この回答の場合、模擬授業に至るまでに授業を創造する魅力については語られていない。つまり、前節に指摘したようなこの側面に関する未整備さの現れと言えらるう。

#### 4 まとめと今後の課題

この質問紙は、学生の経験や入学動機を説明変数として、教職指向性や教育実習への不安を測定するものとして開発した。教職を含めた就職指向性に関しては、調査を行う大学、被験者の集団によって、その因子構造が異なることがわかった。このことは大学等が置かれた入学試験受験へのニーズや採用先のニーズなどが投影しており、むしろその大学等の状況を知る質問項目とも言えよう。

以下にまとめと今後の課題とを、箇条書きの形で整理しておこう。

[1] 本学の場合、東京にある私学で、附属小学校を持たないこともあって、教育実習は、4年次に協力校で行なわれる。そのため、

(1) 既に教員採用試験の準備や就職活動などの、ある意味での意志決定を済ませたあとに実習が行なわれるので、教職指向性を左右することが、地方国立大学での教員養成学部と違ってやや少ない。

(2) しかし、実習前と比べて教職の魅力をよりよく感じることができていることも事実である。

[2] 人口密度が比較的高い場所にあるので、近隣に小学校も多く、学生のサークル活動の一環、あるいは、きっかけによって、子ども会や教育ボランティアなどで、子どもの実際に触れる機会を持っている。

そのことは、教職志望を高める影響を持っているが、教育実習への不安の軽減という点では、「教育ボランティア」としての経験が「実習校の先生に対する不安」を軽減するなどの限定的な作用しか見られない。

[3] 学習指導案に関する具体的な指導に関しては、実施されている教科が限られてはいるものの、既に行なわれているので、やや先進的な傾向が見られる。履修によって「教材」に関する不安を高めていることは、むしろ実習に対する責任の自覚とみるべきだろう。しかし、時間を十分にとり、創造的な立案ができるようにするなどの条件整備が必要とされよう。

[4] 大学の講義によって、教職指向性が高まったり、不安が軽減したりすることは目下のところほとんど見られない。また、教科の得意不得意がそのまま教えたいかどうかに影響している。

付記：

この稿は3.を菱刈，他を正田が試案を作る担当として作り，相互に検討したのち，それぞれを担当者が書き改めたものである。なお，回答の収集に対しては岩間 浩教授のご協力を得た。

資料Aは，紙幅の関係で設問用紙にあった回答をメモするための設問番号を表す添え字つきの四角を省き取めた。

注

- (1) 教育職員養成審議会カリキュラム等特別委員会審議経過報告  
<http://www.nicer.go.jp/lom/data/contents/bgj/1997052602021.pdf>
- (2) 横須賀 薫「実践的指導力養成実現の課題は何か」『大学における教員養成 今後の教員養成と教育学部への在り方について 調査結果と考察』第2部2.，平成12年3月，国立大学協会教員養成特別委員会  
[http://www.kokudaikyo.gr.jp/active/txt6-2/h12\\_3b.html](http://www.kokudaikyo.gr.jp/active/txt6-2/h12_3b.html)
- (3) 上山 浩，正田 良「教育実習アンケート調査」三重大学教育学部平成16年度学部長裁量経費研究『本学部生の課題に基づいた「学生参加型」のFDの具体的な方策の立案と検証過程の研究』研究報告書，平成17年4月，pp.117-132。
- (4) 正田 良「調査問題の解題と調査結果の分析」三重大学教育学部平成16年度学部長裁量経費研究プロジェクト『教育実地研究に向けた「教育実習指導のありかた」に関する総合的研究』教育実習指導のあり方に関する研究会，平成17年3月，pp.4-22。
- (5) 前掲(4)の，p.4による。質問紙は，p.65。
- (6) Stat Partner (<http://www.o-ha.co.jp/package/statpartner.html>) という統計処理ソフトを用いた。以下特に断らない限り、「因子分析」とは，このソフトを用い，デフォルト指定である「反復のある主因子法のバリマックス回転で回転時の基準化を行ない，共通性の初期値はSMC」を意味する。因子の数は分析をする設問項目数の平方根の切り上げた程度にはじめ設定し，固有値 > 1 である因子のうちで，その直後に寄与率が目に見えて下がるところまでを採用することになっている。
- (7) 上述(6)での統計処理ソフトでのデフォルトの設定による。
- (8) 前掲(4)の，pp.12-14。
- (9) 前掲(4)の，p.6。
- (10) 前掲(4)の，p.12。
- (11) 菱刈 晃夫「教師教育学への覚え書—教職志望学生の自己意識調査を手がかりに—」  
国士館大学文学部初等教育学会編『初等教育論集』7号，2006年（掲載予定）

(初等教育専攻：助教授)

一  
二  
三

## 《資料A》

### 教職指向性に関する調査

2005年6月

この調査は、教員養成のための実習や講義・演習などの諸活動をよりよくするために、基本的な統計データを得ることを目的としています。学生番号を記す欄もありますが、他のデータとの関連をみるためのもので、回答はすべて統計的に処理されます。この授業の出席点の参考になる場合はあるかもしれませんが、成績に反映したり、他の扱いで差別を受けることはありません。また、データを個人が特定できる形で公表することはありません。匿名性は保たれます。

このような趣旨により、扱いに留意するものですので、どうか率直にお答え下さい。なお、回答はすべて回答用紙へお願いします。この設問用紙は回収しません。

#### 〈回答の方法について〉

この調査への回答は、自由記述欄を除き、数字で答えてもらいます。学生番号に関する回答を除き、1から7までの数で回答して下さい。設問によっては、特に選択肢の記述のあるところもありますが、選択肢が無い場合は、あなたがその記述について当てはまるか当てはまらないかを次の選択肢によって自己評価をして下さい。この回答の仕方を以下「7点法」と記します。

7：他に類を見ないほど甚だしくそうである。

6：そうである。

5：微妙だがどちらかというところである。

4：どちらとも言えない。

3：微妙だがどちらかというところではない。

2：そうではない。

1：絶対にそんなことはない。甚だしく正反対である。

この設問用紙には回答をメモするための欄を設けてあります。しかし回答は回答用紙に転記して下さい。直接、回答用紙に記してもらって構いません。処理の都合で回答欄に通し番号を付けてあります。

#### I 〈まず、あなた自身についてお尋ねします。〉

一  
二  
三  
問1. 大学名をローマ字で書いたときの一字目によって、1：A、 2：K、  
3：M、 4：Tを答えて下さい。

問2. 入学された年度を西暦で表わしたときの下1桁を答えて下さい。

※ 今年(2005年)ですから、普通1年生は5、2年生は4、3年生は3、4年生は2になります。編入生の方は、一緒に受講している学年の人に準じて下さい。

問3. 学生番号の下3桁を左から右に答えて下さい。

問4. 性別を(1. 男 2. 女)で答えて下さい。

## Ⅱ 〈あなたがこれまで行なって来た活動について伺います〉

問1 それぞれの授業や活動に対して、

- 7：大変熱心に受講したり活動したりした。
- 6：普通に受講したり活動したりはした。
- 5：受講したり活動したりはしたが、やや不熱心であった。
- 4：一応形式としては受講したことになってはいるが、実際はそう言いかねる。
- 3：まだ受講はしていないが、その存在を知っており楽しみだ。
- 2：その存在を知っているが、なるべくなら避けたい。
- 1：え？それって何？って思う。／のいずれかを答えて下さい。なお、「履修中である」も「履修した」に含めてお答え下さい。

- (1) 介護等体験
- (2) 子どもと接する活動や教育現場と直接関わる活動を含む授業科目
- (3) 模擬授業や学習指導案の作製を含む授業科目
- (4) サークルなどの活動で子どもと接すること
- (5) 家庭教師とか塾の講師などの経験
- (6) 教育ボランティアとしての学校との関わり
- (7) 教育実習

問2 次に記すいろいろな動機は、どれほどあなたがこの大学に入学した動機としてあてはまりますか？ それぞれについて7点法で答えて下さい。

- (1) 教職につきたいから
- (2) 勉強したいことができそうだから
- (3) 教員免許や学芸員・学校司書教諭など、免許や資格が取れる
- (4) 身内に勧められた
- (5) 学校（小学校・中学校・高校）の先生に勧められた
- (6) 学風、もしくは、設置主体に安心・期待できる
- (7) 先輩などに安心・期待できる
- (8) 実家から通学できる
- (9) この大学・学部・学科に合格できた
- (10) 就職に有利
- (11) 部活動・サークルに充実できそうだから
- (12) 楽しそうだから

## Ⅲ 〈あなたの教職志望について伺います〉

問1. 現在、あなたは教職をどの程度志望していますか。

- 7：ぜひ教職につきたい
- 6：教職につきたい
- 5：微妙だがどちらかという教職につきたい
- 4：どちらでもよい

3 : 微妙だがどちらかというと教職以外の職業につきたい

2 : 教職以外の職業につきたい

1 : ぜひ教職以外の職業につきたい

問2. 下記のいろいろな考え方は、あなたにそれだけ当てはまりますか。その度合いを7点法で答えて下さい。

(1) 子どもの成長を導く指針になりたい

(2) 教師の仕事に魅力を感じる

(3) 教職はこれまでの勉強が活かせる

(4) 教師は視野が狭いと思う

(5) 教職はたいへんな仕事だ

(6) 教職は、仕事の割りに報酬が少ない

(7) 教職は、収入・待遇が安定している

(8) 教職を続けるには、勉強が必要だ

問3. 大学に入学した当初、あなたはどのような進路を希望していましたか。

7 : ぜひ教職につきたい / 6 : 教職につきたい

5 : 微妙だがどちらかというと教職につきたい / 4 : どちらでもよい

3 : 微妙だがどちらかというと教職以外の職業につきたい

2 : 教職以外の職業につきたい / 1 : ぜひ教職以外の職業につきたい

問4. 入学当初から、現在への、教職志望の変化について伺います。次のものは、あなたにどのような影響を及ぼしましたか。次の選択肢によって答えて下さい。

9 : 該当する経験を有さない。

7 : 大変志望の度合いを強くさせた。

6 : 志望の度合いを強くさせた。

5 : どちらかというのと強くさせるように作用した。

4 : 影響はない。

3 : どちらかというのと弱くさせるように作用した。

2 : 志望の意欲を減退させた。

1 : 志望の意欲を非常に減退させた。

(1) 大学の講義や教員の指導

(2) 附属学校や協力校、近隣の学校等での実習や見学の経験

一 (3) 大学や学部の先輩や仲間の影響

二 (4) 大学のクラブ・サークルでの活動

(5) アルバイトなどの学生生活

(6) 教育ボランティアなどの活動

(7) 身内の影響

問5. 大学の卒業時点で、もし就職採用が決まっていなかったとします。そこへ知り合いの先生から紹介されたとして、次のそれぞれの勤務先についてあなたはどのように思うでしょうか。

- 7：是非その紹介に応じたい／6：紹介を積極的に考慮する  
 5：どちらかというと、考えてもよいかなど思う。  
 4：いきたくも、いきたくなくもない。  
 3：どちらかというと、避けたいなど思う。  
 2：たぶん断るでしょう。／ 1：絶対にいきたくない。

- (1) 実家から通勤圏内の公立学校の専任
- (2) 実家から通勤圏内の私立学校の専任
- (3) 実家から通勤圏外の公立学校の専任
- (4) 実家から通勤圏外の私立学校の専任
- (5) 実家から通勤圏内の公立学校の非常勤
- (6) 実家から通勤圏内の私立学校の非常勤
- (7) 実家から通勤圏内の官公庁
- (8) 実家から通勤圏内の企業
- (9) 実家から通勤圏外の官公庁
- (10) 実家から通勤圏外の企業

#### Ⅳ 〈あなたの各教科についての感じ方について伺います〉

問1 各教科（もしくは領域）についてのあなたの状態を、「A：好きだ」、「B：得意だ」、「C：教えたいと思う」の3つの観点について自己評価して下さい。

- |          | A                                  | B                                  | C                                      |
|----------|------------------------------------|------------------------------------|--|
| (1) 国語   | <input type="text"/> <sub>53</sub> | <input type="text"/> <sub>54</sub> | <input type="text"/> <sub>55</sub>     |
| (2) 社会   | <input type="text"/> <sub>56</sub> | <input type="text"/> <sub>57</sub> | <input type="text"/> <sub>58</sub> 以下、 |
| (3) 算数   |                                    | (4) 理科                             | (5) 生活                                 |
| (7) 図画工作 |                                    | (8) 家庭                             | (9) 体育                                 |
|          |                                    |                                    | (10) 道徳                                |

問2 入学する直前はどうか、(問1と同様の科目・観点の項目設定)

#### Ⅴ 〈教育実習についてお尋ねします。〉

問1. あなたは、教育実習を前にどのような不安を感じています(ました)か。不安の強さを(「7：非常に不安」から「1：かなり楽しみ」までの)7点法で答えて下さい。

- (1) 子どもへの対応や接し方
- (2) 指導の先生との関係の持ち方
- (3) 教生仲間の人間関係やつきあい方
- (4) 教材の理解
- (5) 学習指導案づくり
- (6) 一人で教壇に立つこと
- (7) 発問・板書など授業の進め方や展開の仕方

(8) 実習中の起床時間や食事など生活の仕方について

〈以下の問には、教育実習を経験した方だけお応えください。〉

問2：では、実習中にはどうだったでしょう。同様に7点法で答えて下さい。なお、実習の経験のない方は、空欄のままにしておいて下さい。

- (1) 子どもへの対応や接し方
- (2) 指導の先生との関係の持ち方
- (3) 教生仲間の人間関係やつきあい方
- (4) 教材の理解
- (5) 学習指導案づくり
- (6) 一人で教壇に立つこと
- (7) 発問・板書など授業の進め方や展開の仕方
- (8) 実習中の起床時間や食事など生活の仕方について

〈次の問には、教育実習を経験した方だけお応えください。〉

問3. 教育実習以前に比べてあなたに生じた授業の見方に関する変化について伺います。次のものはどのような影響を及ぼしましたか。「7：非常に影響があった」から、「1：全然影響が無かった」までの7点法で答えて下さい。

- (1) 実習校の指導の先生による授業の参観。
- (2) 実習校の指導の先生による平素の助言・指導
- (3) 指導案作成の指導を受けて
- (4) 自分の授業での子どもの反応
- (5) 他の実習生の授業を参観して
- (6) 反省会での実習校の先生による助言・指導
- (7) 反省会での教生仲間の意見
- (8) 大学の先生による助言・指導

〈次の問には、教育実習を経験した方だけお応えください。〉

問4. 次のことに関して教育実習であなたが学習したと思う度合いを、「7：大変に学習した。」、「1：学習したとは絶対に言えない」までの7点法で答えて下さい。

- (1) 教材研究、指導案づくりなど、授業前に十分準備することの大切さ
- 一 (2) 子どもの発言や行動の予測が難しいこと
- 二 (3) 子どもの発言や行動に臨機応変に対応することの困難さ
- 七 (4) 実習生の授業に対する子どもの反応やシビアな評価

たくさん質問に応じてご協力いただきありがとうございました。



回答用紙：

I  
問1 問2 問3

II  
問4 問1 問2  
(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20

II  
問2 (8) (9) (10) (11) (12)

III  
問1 問2 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8)

問3 問4 (1) (2) (3) (4) (5)

21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40

III  
問4 (6) (7) (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10)

問5 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10)

IV  
問1 (1) (2) (3)

41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60

IV  
問1 (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10)

61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80

IV  
問2 (1) (2) (3) (4) (5) (6)

81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100

IV  
問2 (7) (8) (9) (10)

V  
問1 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8)

101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120

(以下は、教育実習経験者の方への設問です)

V  
問2 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8)

問3 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8)

問4 (1) (2) (3) (4)

121	122	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140

一  
二  
六